

歓声と笑顔あふれる英会話教室!



「夏休み小学生英会話教室」が7月21日(木)と22日(金)の2日間、午前は生涯学習センターで、午後は北部公民館で開催されました。外国人の先生方とふれあいながら、コミュニケーションを楽しみ、英語に親しんでもらうことを目的としたこの教室。

各小学校から集まった3年生から6年生の合計420名が、6つの時間帯に分かれ、10名ずつ7教室で、外国人講師との英語活動に取り組みました。

真剣な表情で先生方を見つめ内容をしっかり聞き取るうとする子どもたちも、その後の活動やゲームでは大きな歓声や笑い声を上げ、心の底からこの教室を楽しんでいるようでした。

このような経験を積むことで、子どもたちが少しでも英語を楽しめと感じ、近い将来、自ら進んで英語の学習に取り組んでくれる人物になってくれればと思います。

新園舎に引っ越しました。

流山市立江戸川台幼稚園



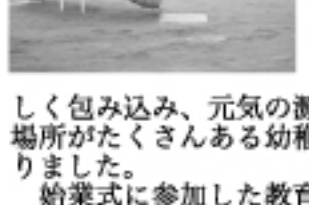
耐震工事に伴う改築工事のため、昨年9月より江戸川台小学校で保育が行われていましたが、工事完了に伴い9月1日から新園舎で保育が行われるようになりました。

リニューアルした幼稚園に初めて登園した子ども達は、久しぶりに会う友達や先生に元気いっぱい挨拶し、喜んで保育室に入りました。ところが保育室に入るやいなや、立ち止まって、動けなくなり、呆然としていた子が大勢でした。新しい環境に戸惑っていたのでしょう。帰る頃には、にこにこ笑顔で元気に挨拶していた子ども達でした。

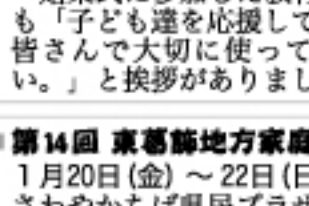
子ども達が健やかに豊かな幼児期が過ごせるように、また、安心して過ごせるよう、安全にも配慮した建築がなされました。設計から完成まで細部にわたり、たくさんの方々の愛情たっぷりの幼稚園が完成しました。



外壁の優しい色、遊具のバスターカラー、室内には、木の香りが漂い、クラスのカラーに彩られた所もあり、フロアスペースの絵本コーナーでは、畳やベンチで読書が楽しめるなど、子ども達を優しく包み込み、元気の源となる場所がたくさんある幼稚園となりました。



始業式に参加した教育長からも「子ども達を応援しています。皆さんで大切にしてください。」と挨拶がありました。



第14回 東葛飾地方家庭科、技術・家庭科作品展
1月20日(金)～22日(日)午前9時より午後6時まで
さわやかちば県民プラザ 回廊ギャラリー

交通安全教育モデル事業

6月8日(水)に、八木南小学校において、千葉県、千葉県警察、千葉県教育委員会が主催する“交通安全教室”が行われました。3年生から6年生までの109人が、「信号無視 その判断が事故を呼ぶ」のローガンの基、講話を聞き、自転車の乗り方の実技指導を受け、安全適正診断車(ちとらくん)やシートベルトコンピンサーやパトカーに体験乗車をしました。



児童は約1時間45分の交通安全教室で、体験を通して交通ルールに関する知識を確認し、また新たに得、自転車においては、これまで以上に安全に乗るための技能を習得できたようでした。



当日は、県の交通安全課、交通総務課、安全保健課、県警の交通機動隊、県トラック協会、市の警察署、市の交通安全協会等多方面からのご支援をいただきました。ありがとうございました。

教育トピックス

流山市ロータリークラブ主催「ふれあい陶芸教室」に参加して

～東部中と東深井中が参加しました。～

5月21日(土)に東部中、東深井中、5月28日(土)に東部中が参加し、おたかの森にある「ギャラリー紫焔窯」にて、陶芸教室が開催されました。昨年も夏休みの部活動で紫焔窯で作陶を行っていたので、今回は個性的な作品を制作していました。3年生は、丸いお皿を作り、気持ちを込めて真ん中に「魂」と文字を入れていました。また、手回しろくろも体験し、楽しく制作することができたとのことでした。2年生は、平皿をたたら作りで作り、たたら棒を使って、まっすぐ均等に粘土を整えるのが難しかったようですが、出来上がりを見て達成感を味わうことができたとのことでした。1年生は初めての参加だったので、紫焔窯の田口佳子先生に基本から教わりながら、あらかじめ考えてきた作品を制作していました。「いろいろな道具があり、先生からわかりやすく教えていただいたので、この機会に作ってみました。鉢の内側に泡立てしやすいうように、線をたくさん入れました。」と満足そうでした。



田口先生は中学校時代に美術部で活動され、顧問の先生に褒められたことがうれしくて、今の陶芸家として歩むきっかけとなったことや、ものを創る楽しさについてもお話していただき、生徒たちには作陶と共にとても充実した時間になりました。

幼児教育研究室、来年1月から江戸川台幼稚園内に移転
相談電話 7154-8781
火曜日、木曜日の午前9時より午後2時まで

教育広報

まごころ

第52号
編集発行 流山市教育委員会
TEL 04(7158)1111

型から入り、型から出る ～新しいステージへ向かって～

流山市教育委員会教育長 後田 博美



保護者の皆様、地域の方々には、これまで各学校の校地や周囲、通学路などの除染活動にご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。今後とも、学校教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

学校訪問をすると、子どもたちは、元気なあいさつで迎えてくれます。特に、小学校の1年生の成長はめざましく、入学式の頃に比べ、どの学校でも、「おはようございます。」「こんにちは。」などしっかりとあいさつが出来るようになっていて、感心することが度々です。これまでの数ヶ月の間に、学校生活にもすっかり慣れ、着実に習慣が身につけてきた証だと言えます。

私の心に残っている言葉に、「型から入って型から出る。」というのがあります。昔、先生に教えていただいた言葉ですが、『何にでも「型」というものが存在しており、それは、先人たちが時間をかけて作り上げたり、無駄なものも削られて出来上がった中で、ある法則性を生み、結果として美しいものになる。』というものです。あいさつに限らず、学校生活には、いわゆる「型」、規則やきまりがあります。これは私たちが集団の中で生活する上で、欠かすことのできないものだと思います。そして「型」を知ったら、そこから出ていくことが必要です。それが、また新たな原則や価値を生み出しながら、さらに進歩していくこととなります。

ですから、まず「型」を知る必要があり、学校でよく言われる生活の基本的習慣は、すなわち、この「型」に由来するところが大きいのではないかと感じています。質の高い学習や教育を求めるとは、この「型」から入って型から出る。」ということが大切であり、この追求の課程で、また新しい内容を生み出していくことが、求められていると思います。子どもたちがより質の高い成長を目指すためにはこのことが必要であり、それは私たち大人の大きな役割であると思っています。

“支え合う”というすばらしい力!!

～県スクールカウンセラー派遣事業への参加を通して～

流山市スクールカウンセラー 中込 美香

三月十一日に発生した東日本大震災から半年以上が経過しました。私達の住む千葉県も甚大な被害を受けた地域がありました。被害を受けられた方々、また被災された方が身近におられる方々に心からお見舞い申し上げます。

今回の災害を通じてさまざまなことを感じ、改めて日々の過ごし方や困難を乗り越えるために必要なことについて見つめなおされた方も多くいらっしゃると思います。私は、5月中旬の一週間、千葉県のスクールカウンセラーとして岩手県の被災地の中学校に派遣され、支援活動を行ってきました。その活動を通じて感じた二つの力の重みについてお伝えしたいと思います。

一つ目は、子ども達を支える保護者や先生方をはじめとした大人の持つ力です。私が配置された学校の教職員の大半の方々が被災者でした。しかし、学校では子ども達を元気づけ、守り、育てようと懸命に授業を行っておられました。また、保護者の方々も過酷な現状と向き合いながら「震災前と変わらない日常生活を送らせてあげたい。」という優しく温かい力で子ども達を学校へ送り出しておられました。被災レベルが深刻な地域であったにも関わらず子ども達が生き生きと過ごせていたのは、大人による子ども達を支える力が非常に大きいと感じました。

二つ目は、子ども達同士の支え合う力です。私が感銘を受けたのは、子ども達が「自分以上に辛い悲しい思いをしている人たちのために何をすべきか」を常に考えていることでした。一人一人が仲間を思いやり励まし合いながら授業を受けており、課外活動中は、その場を盛りあげ一生懸命に下級生を引っ張っていく上級生の姿が見られました。実際に私のところへ「どうしたら友達を励ますことができるか」と相談に来た生徒もいました。子ども達が持つ周囲を思いやり、支え合いながら困難を乗り越えようとする逞しい力に胸を打たれました。

岩手県から戻って以来、私は自分にはどのような力があり、それをどのように生かすことができるのかを考えるようになりました。被災地での貴重な体験から知ることができた二つの尊い力を忘れることなく自分にできることを探していきたいと思っています。

“PTA、自治会、防犯パトロール隊等の皆様へ” 12月の小学生に対する傷害事件に対して、子どもたちの見守り強化に対応していただき、ありがとうございました。